

第一回

「言論・表現の自由」 と戦後 70 年

アジア太平洋戦争から 70 年。

戦時中、「国策報道」に終始した日本のメディアは
その深い反省から再出発しました。

しかし、現政権下で台頭する国家主義に、
急激に差し迫っているテロと戦争の脅威に、
メディアは十分な対応ができているでしょうか。
二人のジャーナリストの対話を通じて、考えます。

原
寿雄

&

関手
綿井健陽

(ジャーナリスト・映画監督／アジアプレス)

(元共同通信)

■日時

2015年4月29日

(水・祝) 午後2時～4時30分

■会場 岩波セミナールーム

東京都千代田区神田神保町2丁目3番1号
岩波書店アネックスビル3階
(東京メトロ神保町駅下車A6出口1分、岩波ホール隣)

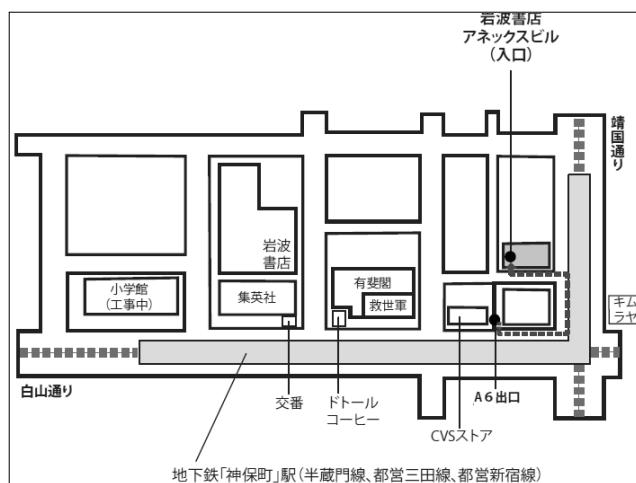
■参加費: 1000円

(学生・メディア総研維持会員は無料)

■予約不要・先着順

■主催: メディア総合研究所

〒160-0008 東京都新宿区三栄町 17 木原ビル
TEL: 03-3226-0621 FAX: 03-3226-0684
Mail: mail@mediasoken.org



※メディア総合研究所では今年、月一回程度で連続研究会「メディアの戦後 70 年」を開催する予定です。5月以降は、「マスメディアと戦後 70 年」「NHKと戦後 70 年」「ジェンダーと戦後 70 年」などの企画を準備中です。固まり次第、HP (<http://www.mediasoken.org>) 等で告知します。